

# IQ の実生活における機能

© Paul Cooijmans

これは IQ に期待される典型的機能と実生活での役割を記述したものである。この IQ は平均値が 100 であり、標準偏差が 15 の場合を意味する。これらは成人用知能検査に当てはまり、幼児用知能検査のためのものではない。それぞれの領域の正確な基準は任意であり、重要なことは IQ それ自身よりも、その役割について、特に、社会適応と環境的支持について注目すべきである。

最も低い領域の IQ では、実生活においては非常に有効性があることが知られている（G 因子と最高値の相関関係）が高くなるにつれ信頼性は保障できない。例えば、お金で IQ を上げたときの場合。（ポール氏のハイレンジ IQ テストではお金を支払えば点数を

上げてくれる) IQが140を越える場合の信頼性は必ずしも保障できるものでない。

## 20 以下 - 最重度精神遅滞

殆どの場合、明白に多くの身体的障害を持ち、短命である。他者への依存を強く必要とし、学習能力はほぼ絶望的である。この最も低いIQを持つ成人は平均的な3ヶ月児の発達レベルを超えていないかもしれない。IQ5は平均的1歳児の知的レベルに相当し、IQ10は平均的2歳児と同じである。

## 20-34 - 重度精神遅滞

基本的な技術や言語を習得することは困難である。他者に依存すれば、いくつかの自己管理能力を身につけることは可能である。殆どの場合、運動神経に問題があり、雇用能力もない。

### 35-49 – 強度精神遅滞

特殊教育を施せば、簡単な生活能力と雇用能力を習得することは可能である。特別に考慮された環境ならば雇用できる可能性もあり、ある程度の独立を成し遂げることが可能かもしれない。殆どの場合、社会的不適応者である。

### 50-69 – 中度精神遅滞

教育可能である。自己管理能力を習得することは可能だが、監督者が必要とされる。管理された環境ならば、一人暮らしができる。未熟だが、社会的に適応できる。機械的な動作の仕事をする事が可能である。殆どの場合、明白な身体的障害がない。

### 70-79 – 軽度精神遅滞（知的障害者としての境界線）

訓練可能の限界点である。電話張の使用、バスや電車の時刻表、銀行、記入、ビデオデッキ、電子レンジ等の使用が困難である。故に、親族や公共機関からの援助を必要とする。監督者を必要とする単純な仕事を行うことが可能である。

## 80-89 – 平均以下

平均的に独立的行動を起こせる最小値である。選択的作業が無く、何をしなければならないかが常に明白であるときに限り、監督者を必要とせずに機械的作業を行うことができる。組立て職人、フードサービス等。この領域のIQは暴力的傾向がある。殆どの暴力的犯罪はこのIQを持つ男性によって引き起こされる。これはこの領域の全ての男性が必ずしもそうであることを意味しない。しかし、ある集団の平均IQがこの領域であるとき、その人はその集団の多くの男性と悪い問題を引き起こす可能性がでてくる。

## 90-99 – 平均

意思決定を含んだ実演及び商業的取引を習得することが可能である。職人、販売人、警察官、事務員

## 100-109 – 平均

書物から学習することができる。上級レベルの雇用能力がある。

## 110-119 – 平均以上

大学教育を受けることが可能である。平均的学士号取得者、支配人、教師、会計士、高度な試験を受けることが出来る。

## 120-129 – 優秀

自分自身の知識を処理し、推論する能力がある。平均的修士号取得者、弁護士、化学者、管理職 等

### 130-139 - 最優秀

教養的結果の表れとして、平凡な小説や教科書の判読可能な記事を書くことが出来るかもしれない。ソフトサイエンス（社会制度など、厳密に数値測定化しにくいものを対象とする学問）の博士号取得者。その高度な知的能力にもかかわらず、殆どの場合、社会的適応力がある。この領域の上位者は、高い領域まで計測可能な知能検査の中間値を占める。一般的な心理学者の知能検査はこの領域を超えた場合、G 因子との相関関係は信頼性が低くなる。

### 140-149 – 天才

理性的及び合理的なコミュニケーションと科学的な仕事をする事が可能である。この領域から、特別に

製作された高領域まで計測可能なテストだけが使用されるべきである。そのようなテストが監督者付き知能検査と同じ位の信頼性があるかは現在不明である。重要な科学の発見と進歩はこの領域より上のIQによってもたらされる。もしこのIQを持つ人物が同レベルのIQをもつ団体から十分に支持されない場合、その人自身とその環境の違いから社会不適応の問題がこの領域の中心から生じるかもしれない。この領域のIQが100を中心とした正規分布の右端に単純に遺伝学的に従うかは不明である。ある場合において高い知性は他の要因をもつかもしいない。(非遺伝的要因によって)中心を100とした正規曲線への誤差を引き起こし、そして右端において一種の出現率の誤差を引き起こす。同様に、左端の知的障害の領域においても出現率の誤差が生じる。(これは非遺伝的要因によって引き起こされる)

調査中

160-169

調査中

170-179

調査中

180-189

この領域の IQ を持つ者は、孤独心が強く、恐らく人類最高の知性を期待できるかもしれない。